

本在家

ほんざいけ



先 月号で紹介した柳瀬地区の北隣に位置する本在家地区。本在家の地名表記も、柳瀬と同じく「七里乙」で、現在25世帯51人が暮らしている。



今も大切にされている丹後さん

ここにお城があった。本在家城（別名・野口城）である。といっても山城で、天守閣などがあつたわけではない。山頂からは支配地の様子を

ここも明治9年の7村合併により七里村となった地区である。当時、七里村の中でも中央に位置し、比較的開けた地形と周辺地区への交通の起点となつていたことから、村の中心的役割を果たした。現在の本在家地区は、戦国時代末期までは「野口村」と称していた。長宗我部氏による支配期に、野口村と周辺8村（影山・柳瀬・西松・越行・小野川・中村勝賀野・川ノ内・川津野）をまとめて「本在家」とした。

点検・観察したり、いざ戦となれば敵の情勢をうかがうといった役割を果たすためのものである。仁井田五人衆といわれる武将の一人「東氏」がこれを築いた。

そもそも「在家」とは、中世における荘園などの公領地の課税対象地域の呼称の一つである。「賦課管理対象としての耕地を考える時に、そこに住む農民の構成人数もプラス要素として重要視していた地域」という意味がある。つまり、耕地だけでなく、そこには「人もいる＝家も在る」ということである。したがって、本在家や新在家などの地名は全国にある。

東氏は仁井田五人衆の他の武将と同じく、初めは一条氏を主とし、一条氏滅亡後、長宗我部氏の支配下になるのであるが、四代目当主丹後守宗隆は、一条氏を滅ぼした長宗我部元親を恨み、元親討伐を図るが失敗し、討ち取られてしまう。その墓が仁井田地区へ向かう山道の途中にあり、今も地区の人から「丹後さん」と呼ばれて大切に祀られている。

はじめは「本在家」という地名はエリアを指す名であったのだが、山内氏が入国してから正式に「村」として再編成され「本在家村」となった。

また、東谷山の麓に東氏の菩提寺とされている「清音（恩）寺」がある。廃仏毀釈政策の影響もあり老朽化が著しかったが、地区出身の篤志家によって改築され現在に至っているという。

さて、現在の本在家地区の北側に「東谷山」という小高い山があり、こ



清音寺にある五輪塔の石は本州産のものではないかといわれている

町のうごき	(11月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出	四万十川の 水質状況	適正值(mg/l)	12月10日		
	男	8,689	-2	男	7	8	9		10	リン酸	≤ 5.0	0.152
	女	9,757	-17	女	4	11	10		20	硝酸	≤ 0.5	0.600
	計	18,446	-19	計	11	19	19		30	アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
	世帯数	8,668	-8				(11月中の届出)		アニオン活性剤	≤ 1.0	0.150	
									化学的酸素消費量	≤ 10.0	測定範囲以下	

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部